

生活単元学習 学習指導案

授業日時 令和6年11月1日（金）

5校時（13：20～14：00）

対 象 中学部〇組 6名

場 所 中学部〇組

指 導 者 （T1）（T2）

1 単元名「学習発表会に出品するキーホルダーを作ろう」

2 生徒の実態

中学部〇組は、1年生2名、2年生2名、3年生2名の計6名で編制されている。2年生のうち1名は、転校により9月から〇組に加わった生徒である。

それぞれの生徒の実態は次のとおりである。

生徒	実態
A	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な言葉の指示を理解できる。イラストや写真、動画など視覚的に提示するとより理解しやすい。 ・ひらがなやカタカナの読み書きはできるが、文章の読み書きは苦手である。 ・人が多い場面や見通しが立たない場面では不安定になることが多いが、事前に説明したり、文字やイラストなどのスケジュールを提示したりすると落ち着いて最後まで参加することができる。 <p>＜本単元に関する実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手先が器用で、複雑な図形をはさみで切ったり、丁寧に色を塗ったりするなど、工作活動が得意である。 ・休み時間は一人でいることが多かったが、7月中旬頃から、自分から友だちや教員に対して関わるが増えてきている。 ・教員の支援を受けながら、iPadの操作をすることができる。 ・友だちや教員と一緒に材料や道具の準備、片付けを行うことができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・右手、右足麻痺があり歩行が不安定のため、ヘッドギアを装着している。 ・麻痺の影響で発音が不明瞭なところがあるが、相手に伝わらないときは字を書いて伝えようとするなど、人と関わること（話すこと）は好きである。 ・椅子座位での姿勢の保持が難しいため、作業や課題はマットの上で座って行うことが多い。 ・好奇心や、やりたいことへの意欲が強く、行動力がある。 ・困っている友だちや教員にさりげなく手助けをすることがある。 ・衝動性に加えてストレス耐性が低く、他者の何気ない言動に過敏に反応し、不適切な言動（暴言、暴力、机を叩く等）を表出することがある。 <p>＜本単元に関する実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工作活動が好きで、意欲的に取り組むことができる。 ・情緒面や行動面に支援が必要であるが、教員の見守りや言葉かけで安定して活動できることが多い。 ・教員の支援を受けながら、iPadの操作をすることができる。 ・友だちや教員と一緒に材料や道具の準備、片付けを行うことができる。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも優しく穏やかに接することができる。 ・初めて取り組むことには、言葉の説明に加えて、教員が手本を示したり、写真やイラ

	<p>スト、動画を提示し説明するとより理解しやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任せられた課題や仕事は粘り強く、最後まで取り組むことができる。 <p>＜本単元に関する実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工作活動が好きで、意欲的に取り組むことができる。 ・友だちの活動（製作した作品）に対して、ポジティブな感想を言うことができる。 ・教員の支援を受けながら、iPad の操作をすることができる。 ・何度か確認すると材料や道具の準備、片付けを一人で行うことができる。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・転校により 9 月から本学級に入り学校生活を送っている。 ・小声で話すため、相手に内容や意思が伝わりにくい。 ・聴覚からの情報のみでは、話の内容を間違って理解していることが多い。 ・経験不足や学習の空白（不登校）により、生活や学習場面において未学習やできないことが多いが、見本を見せたり、スケジュールを提示したり等の支援をすることで理解できることがある。 <p>＜本単元に関する実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色を塗ったり、絵を描いたりすることが好きである。 ・YouTube の動画を検索するときは、文字（ひらがな入力）と予測変換による候補の選択により見たい動画を選ぶことができる。 ・友だちや教員と一緒に材料や道具の準備、片付けを行うことができる。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな性格で、慣れた相手には明るく大きな声で挨拶をしたり、話をしたりすることができる。 ・新しい課題や苦手な課題を行う時は、課題や学習方法を選択できるようにすることで、抵抗なく学習に参加することができる。 ・自分からやると決めた活動には、意欲的、主体的に取り組もうとする。 ・現在は先天性内反足の治療中のため車いすを使用している。 ・生徒 B に対して苦手意識があるものの、様々な活動を通してコミュニケーションをとることが増えてきた。 <p>＜本単元に関する実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かい作業が苦手であるが、工作活動が好きで、配色を考えて色を塗ることができる。 ・iPad の keynote に文字を入力したり、画像を挿入したりすることが一人でできる。 ・何度か確認すると材料や道具の準備、片付けを一人で行うことができる。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かが困っていたらさりげなく手助けしたり、教員に伝えたりすることができる。 ・慣れた友だちや教員と話すことが好きで、クラスでは冗談を言って楽しい雰囲気を作ろうとする。 ・朝や帰りの会の司会や授業の号令など、できることは積極的、自発的に行うことができる。 ・生徒 B を避けている時期があったが、生徒 B の良いところを理解し始めてからは、様々な活動や遊びを通して関わりが見られるようになってきた。 <p>＜本単元に関する実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かい作業が苦手であるが、工作活動を楽しみながら最後まで取り組もうとする。 ・iPad の keynote に文字を入力したり、画像を挿入したりすることが一人でできる。 ・何度か確認すると材料や道具の準備、片付けを一人で行うことができる。

3 単元設定の理由

本学級は、どの生徒も明るく優しい性格で、自分の好きなことに前向きに取り組むことができる。しかし、他者と関係を作るのが苦手であったり、他者との関係でトラブルになったりする等、様々な課題を抱えた生徒が在籍している。特に、生徒 B の暴言は、言われた生徒だけではなく、それを見聞きした生徒も恐怖を感じている様子があり、生徒 B を避ける行動が見られた。これらのことから、学級の仲間作りを最優先して、生徒同士でのコミュニケーションや人間関係の形成といった課題を解決するための学びが必要であると実感しており、授業を行う際には、生徒一人一人ができることを精一杯取り組み、全員で協力できる内容を取り入れている。掲示物や道具の製作、調理実習等、体験的活動をとおして、生徒同士で話し合い、合意形成を図ることを繰り返すことで、他者を意識して活動する様子が少しずつ見られるようになり、仲間意識の高まりや達成感が感じられるようになった。

そのような中、9月から生徒 D が学級の仲間に加わった。生徒 D は新しい環境での学校生活に不安をもっているようであったため、学級の中での居場所を作ることが必要であると感じ、友だちや教員との適切な関わりが、安心感につながるのではないかと考えている。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）の各教科等を合わせた指導の特徴と留意点において、生活単元学習は「児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実践的・総合的に学習するもの」とある。実態差の大きい生徒たちであっても、生徒の興味関心のあるテーマに基づき、生徒間で協力して活動する場面を作る等、実態に応じて柔軟に設定ができる。本単元では、「学習発表会」というテーマの中で、目標の達成に向けて、生徒同士が関わり合いを学ぶ場面を設定することにより、学習の中で相手を意識し、仲間意識を高めていきたい。また、主体的、積極的に学びを進められるよう学習環境を設定するとともに、教員がポジティブにフィードバックを行い、成功体験を積み重ねられるように配慮することとする。

本学級の生徒たちは、工作活動が好きである。絵の具を使って自由に色を塗ったり、プラ板キーホルダーを作ったりして、様々な制作活動に楽しみながら取り組んできた。そこで、11月に行われる学習発表会後のバザーにおいて、プラ板キーホルダーを製作し、販売することにした。本単元では、「職業・家庭科（職業分野）」、「美術科」、「特別活動」を合わせて指導する。加えて、「自立活動」で生徒たちが獲得したスキルを授業の中に取り入れて、指導を進めることとする。

最初は、生徒同士が関わり合う中で学ぶ機会を作る。具体的には、グループで共同作業をしたり、作業や課題を分担したりすることで、生徒たちがわかって学ぶ環境づくりを行う。授業の中で協力した方がうまくいく場面を作ることで、作業や課題を達成したときの喜びの共有と学びの充実感を得られるようにする。

授業では、プラスチック製の板（プラ板）に型紙で型を描いて切り取り、好きな色を塗ってトースターで加熱し、飾り付けをしてキーホルダーにする。それを飾り付けた台紙にラッピングして、学習発表会後のバザーで販売するための製品にする。生徒が得意なことを生かして作業ができるように、実態をふまえて役割分担をした。このことで、全員で一つの作業に取り組んでいるという一体感を感じられるようにする。

さらに、本単元では ICT 機器（iPad）を活用し、電子黒板によるスケジュールや手順の提示に加えて、個別に準備物や作業手順を iPad の画像や動画で提示することにした。これにより、手順がわからなくなったときに何度でも確認できることで自主的に活動できる場面が増えると考えた。ICT 機器を使うことで、画像や動画での確認や写真や音声による記録が可能であったり、記録したものを確認することで自ら振り返りができたりする等、生徒の特性に応じた視覚的支援の調整ができ、より深い学びが期待できる。

学習発表会に出品するキーホルダーの製作を通して、各教科や特別活動の内容を学校生活の中で組織的に学ぶとともに、学級の課題である関わり合いにもアプローチを進めていきたい。

4 単元の目標

- 工夫してキーホルダー作りに取り組むための技能を身に付けることができる。
(美術科：知識及び技能)
- 様々な道具（工作道具や iPad）の使い方を身に付けることができる。
(職業・家庭科（職業分野）：知識及び技能)
- キーホルダーを丁寧に作る方法を考えたり、創意工夫をして作る楽しさを感じたりすることができる。
(美術科：思考力、判断力、表現力等)
- 道具や材料などを使用するときに、安全や衛生に気を付けることができる。
(職業・家庭科（職業分野）：思考力、判断力、表現力等)
- 仲間と共にキーホルダー作りを行う楽しさを味わい、完成の喜びをとおして、製作活動を身近なものとして感じることができる。
(美術科：学びに向かう力、人間性等)
- 自分の得意な作業を知り、担当する作業に決められた時間内に取り組むことができる。
(職業・家庭科（職業分野）：学びに向かう力、人間性等)
- お互いの意見を尊重しながら決めたり、作業方法や完成したキーホルダーについて仲間と意見を交わしたりすることができる。
(特別活動)
- 自分の任された役割を果たし、キーホルダー作りに取り組むことができる。
(特別活動)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(美術科) 工夫してキーホルダー作りに取り組むための技能を身に付けることができている。 (職業・家庭科) 様々な道具の使い方を身に付けることができている。	(美術科) 仲間と共に創意工夫をして作る楽しさを感じることができている。 (職業・家庭科) 安全や衛生に気を付けることができている。	(美術科) 仲間と共にキーホルダー作りを行う楽しさを味わい、完成の喜びを感じようとしている。 (職業・家庭科) 担当する作業に決められた時間内に取り組もうとしている。

6 指導計画 全 19 時間

- 働くことについて考えよう（労働と賃金、労働の楽しさ等） … 2 時間
- 自分のキーホルダーを作ってみよう … 3 時間
- キーホルダーの図案をみんなで考えよう … 1 時間
- どの作業内容を担当するか話し合っ決めてよう … 1 時間
- 分担してみんなでキーホルダーを作ろう … 12 時間（本時 8 / 12）

7 本時の目標

生徒	目標
A	<ul style="list-style-type: none"> わからないときや作業工程を確認したいときは、教員と一緒に iPad の画像や動画で確認することができる。 友だちや教員と一緒に話し合っ、プラ板の図案を決めることができる。 製作活動において工夫した点や頑張った点を発表することができる。 友だちの作品を見て、ポジティブな感想を伝えることができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> わからないときや作業工程を確認したいときは、教員と一緒に iPad の画像や動画で確認することができる。 友だちと話し合っ、絵の具の色や役割などについて決めることができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・製作活動において工夫した点や頑張った点を発表することができる。 ・友だちの作品を見て、ポジティブな感想を伝えることができる。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないときや作業工程を確認したいときは、教員と一緒に iPad の画像や動画で確認することができる。 ・友だちと話し合って、絵の具の色や役割などについて決めることができる。 ・製作活動において工夫した点や頑張った点を発表することができる。 ・友だちの作品を見て、ポジティブな感想を伝えることができる。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないときや作業工程を確認したいときは、教員と一緒に iPad の画像や動画で確認することができる。 ・友だちや教員と一緒に話し合って、プラ板の図案を決めることができる。 ・製作活動において工夫した点や頑張った点を発表することができる。 ・友だちの作品を見て、ポジティブな感想を伝えることができる。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないときや作業工程を確認したいときは、iPad の画像や動画で確認することができる。 ・友だちと一緒に話し合って、プラ板の図案を決めることができる。 ・製作活動において工夫した点や頑張った点を発表することができる。 ・友だちの作品を見て、ポジティブな感想を伝えることができる。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないときや作業工程を確認したいときは、iPad の画像や動画で確認することができる。 ・友だちと一緒に話し合って、プラ板の図案を決めることができる。 ・製作活動において工夫した点や頑張った点を発表することができる。 ・友だちの作品を見て、ポジティブな感想を伝えることができる。

8 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点		学習活動における 具体的評価規準
		T 1	T 2	
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりの挨拶をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業内容と約束を確認する。 ○スケジュールと役割の確認 ○役割 プラ板に紙やすりをかける、図案を写す、図案に色を塗る、輪郭線をはさみで切る (A、D、E、F) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開始を伝え、号令をかける生徒を呼名し、挨拶するよう指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に本時のスケジュールと役割、約束を掲示し、説明する。 ・仲間と協力したり話し合ったりして取り組むことを伝え、製作に移るよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりの姿勢ができていない生徒には、姿勢や T 1 への注目を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に注目できていない場合は、言葉かけや指さしで注目のよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・号令をかけることができる。 (指名された生徒) ・T 1 に注目して挨拶をすることができる。(全員)

	<p>台紙を作る、プラ板を焼きプレスする、アクリルスプレーを吹き付ける（B、C）</p> <p>○約束</p> <p>①友だちと相談して決める。</p> <p>②友だちのいいところを見つける、伝える。</p>			
展開 27 分	<p>・製作に必要な道具を準備する。</p> <p>・製作する。</p>	<p>・必要な道具や材料、製作手順がわからないときは、iPad の動画を確認するよう指示する。</p> <p>・製作手順を確認できた生徒は、製作を開始するよう指示する。</p> <p>・製作時間が分かるようタイマーをセットする。</p> <p>・生徒が製作に困っていたら、必要に応じて iPad で製作手順を確認するよう言葉かけをしたり、示範を行ったりする。</p> <p>・生徒が創意工夫している点や、仲間と協力して取り組んでいることに対してポジティブな言葉かけを行い、称賛する。</p> <p>・意思疎通や意思決定をする時は、生徒同士</p>	<p>・準備に困っている生徒がいたら、ヒントとなる言葉かけや指さしを行う。</p> <p>・iPad の操作に困っている生徒がいたら必要な支援を行う。</p> <p>・生徒が製作に困っていたら、必要に応じて iPad で製作手順を確認するよう促す。</p> <p>・生徒が創意工夫している点や、仲間と協力して取り組んでいることに対してポジティブな言葉かけを行い、称賛する。</p> <p>・意思疎通や意思決定をする時は、生徒同士で話し合ったりポジティブな意見を伝えるよう促し、生徒同士の合意形成がスムーズに進むよう支援する。</p> <p>・生徒 D がプラ板</p>	<p>・わからないときや作業工程を確認したいときは、教員と一緒に iPad の画像や動画で確認することができる。（A、B、C、D）</p> <p>・わからないときや作業工程を確認したいときは、iPad の画像や動画で確認することができる。（E、F）</p> <p>・わからないときや作業工程を確認したいときは、教員と一緒に iPad の画像や動画で確認することができる。（A、B、C、D）</p> <p>・わからないときや作業工程を確認したいときは、iPad の画像や動画で確認することができる。（E、F）</p> <p>・友だちや教員と一緒に話し合っ、て、プラ板の図案を決めることができる。</p>

		<p>で話し合ったりポジティブな意見を伝えたりするよう促し、生徒同士の合意形成がスムーズに進むよう支援する。</p> <p>・製作終了合図のタイマーが鳴ったら、製作を中止し教室の真ん中に集まるよう伝える。</p>	<p>を切るときに、切りやすいように図案に補助線を引く。</p> <p>・生徒 D が切りやすい高さでプラ板を支える。</p> <p>・生徒 A、D、E、F の製作したプラ板ができあがったら、生徒 B、C にプラバンを渡し、その後の作業をお願いするよう促す。</p> <p>・製作終了合図のタイマーが鳴っても製作を続けている生徒がいたら、製作を中止し教室の真ん中に集まるよう伝える。</p>	<p>(A、D)</p> <p>・友だちと一緒に話し合って、プラ板の図案を決めることができる。(E、F)</p> <p>・友だちと話し合って、絵の具の色や役割などについて決めることができる。(B、C)</p>
<p>まとめ 10 分</p>	<p>・活動を振り返る。</p>	<p>・自分が製作したキーホルダーや台紙について、工夫した点や気に入っている点を発表するよう促す。</p> <p>・生徒 A、D の発表後、教員が補足的な言葉で説明する。</p> <p>・発表後には、成果だけでなく製作への取り組み姿勢や友だちと協力してできていた点などを具体的に伝え、称賛する。</p> <p>・友だちの製作したキーホルダーや台紙について、ポジティブな感想を伝えるよう促す。</p> <p>・生徒 A、D が感想を伝えた後、教員が補足的な言葉で説明する。</p> <p>・生徒のポジティブな感想を全員で共有することで、生徒の自信を高め、より良いコミュニケーションや協力関</p>	<p>・発表する生徒へ注目するよう促す。</p> <p>・発表後には、生徒 A、D、E、F の製作への取り組み姿勢や友だちと協力してできていた点などを具体的に伝え、称賛する。</p> <p>・ポジティブな感想を伝えることができる。</p>	<p>・製作活動において工夫した点や頑張った点を発表することができる。(全員)</p> <p>・友だちの作品を見て、ポジティブな感想を伝えることができる。(全員)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの挨拶をする。 	係を築くことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の終了を伝え、号令をかける生徒を呼名し、挨拶するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの姿勢ができていない生徒には、姿勢や T 1 への注目を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・号令をかけることができる。(指名された生徒) ・T 1 に注目して挨拶をすることができる。(全員)
5 校時が終了したら 10 分間の休憩をはさみ、片付けを行う。				

9 準備物

テレビ、iPad、オーブントースター、フライ返し、紙やすり、色鉛筆、はさみ、プラ板、絵の具、筆、ボウル、カゴ

10 配置図

